

忘れてはいけない ことがある

高知県中国「残留」邦人 写真展 & 講演会

あの日、私は祖国に棄てられた。



高知市 かるぽーと 第5展示室
文化プラザ

写真展 6月26日(火)～7月1日(日) 10:00～18:00
(最終日のみ16:00まで)

写真提供 中島健蔵氏

講演会 7月1日(日)のみ 13:30～16:00

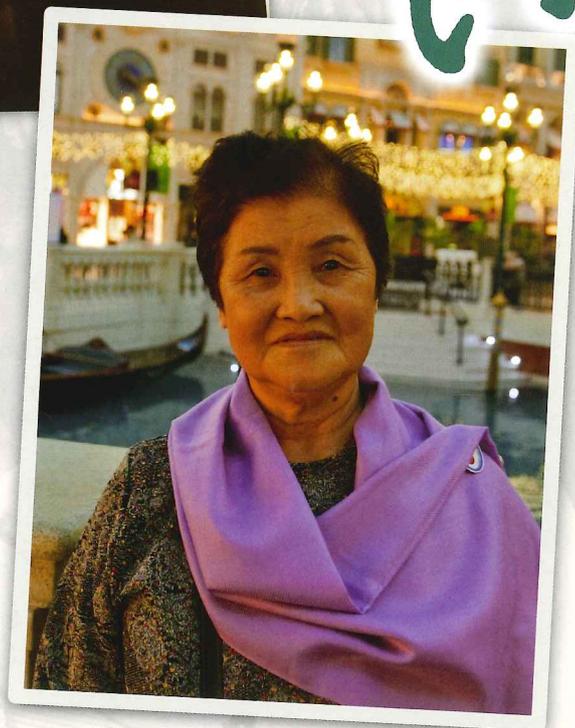
演題 あの日、私は祖国に棄てられた
～中国「残留」邦人の証言～

講演者 高橋公子氏

入場料
無料

主催/高知大学 学生団体EMIRY

後援/高知県中国帰国者の会・高知市教育委員会・高知新聞社・朝日新聞高知総局・毎日新聞高知支局
読売新聞高知支局・NHK高知放送局・RKC高知放送・KUTVテレビ高知・KSSさんさんテレビ・エフエム高知



(財)高知新聞厚生文化事業団助成事業

忘れてはいけないことがある

高知県 中国「残留」邦人 写真展 & 講演会 6月26日(火)～7月1日(日)

あの日、私は祖国に棄てられた



■ 中国「残留」邦人とは



1931年の「満州事変」後、日本は現中国東北部へ「満州国」を建てた。その後、日本各地より多くの開拓団が「満州」に送られた。1941年太平洋戦争の中、戦局が不利になると、日本軍は自国の兵力不足を補うために在満日本人男性(18歳以上45歳以下)を「根こそぎ動員」し、開拓団に残されたのは女性・子ども・高齢者のみとなった。1945年8月9日に、ソ連が参戦し「満州」に進撃すると、関東軍は開拓団の日本人を置き去りにし、一斉に退去した。開拓団に残された女性・子ども・高齢者は南方を目指し避難したが、ソ連軍や暴徒化した中国人に襲撃されて命を落としたり、集団自決を余儀なくされた。何とか生き延びたとしても、難民生活の中、寒さや飢えで命を落とす人が後を絶たず、この避難のさなかで、身寄りのなくなった日本人の子どもたちは現地の中国人の養子になるなどして生き延びた(「残留」孤児・婦人など=「残留」邦人)。その後数十年、日本に帰ることができなかった。

PROFILE

高橋 公子 たかはしきみこ



1937年に高知県長岡郡に生まれる。1944年の春から家族5人で旧満州(中国東北部)北安省慶安県(現・黒竜江省)へ開拓団として渡る。1945年8月の敗戦時点で8才、家族とともに避難し奉天(瀋陽)難民収容所で中国人に引き取られる。1980年6月に43才で帰国を果たし、現在に至る。

中島 健蔵 なかしまけんぞう



1959年高知市生まれ。大阪芸術大学写真学科卒業後帰郷。高知短大で玉置啓子先生に中国語を学び、以来、中国を歴訪中。
<写真展>
2005年「ユーラシア三人展」に参加
2005～07年 高知新聞夕刊「ファインダーの向こうに好奇心」連載
2007年06月「中国残留日本人」写真展
2008年12月「満州という国」へ出品
2010年「プロフェッショナルアイズ」などへ参加中
社団法人・日本広告写真家協会(APA)会員、日本写真芸術学会会員
高知大学教育学部写真科目非常勤講師



高知大学 学生団体 EMIRY(エミリー)

2009年より中国「残留」邦人を伝えようというテーマの下、中国「残留」邦人問題に関する講演会の主催やインタビューや記録保存活動を行っている。

【活動経歴】

2010年8月29日、「こうちボランティアフェスティバル2010」にて講演会と写真展の開催。2010年11月12日、高知県立春野高校にて講演会の開催。2011年9月17日、高知市市民図書館にて講演会の開催。

お問い合わせ

高知大学 学生団体EMIRY[代表 佐々木 美鶴]
E-mail: team_emiry@yahoo.co.jp

